

4.3.2 導・送・配水管の被害件数

表 4.6 に口径・管種・被害形態別の被害件数を示す。

また、表 4.6 には被害件数を管種毎の管路延長で除した被害率を示す。

- ① 合計 20 件の被害が発生し、被害率は平均で 0.05 件/km と小さな値であった。
- ② 硬質塩化ビニル管の被害件数は 13 件であり、被害率は 0.07 件/km であった。被害形態は継手の抜け、継手漏水、管体破損であった。写真 4.3 及び 4.4 に継手漏水、管体破損の例を示す。
- ③ ダクタイル鉄管の被害件数は 6 件であり、被害率は 0.03 件/km であった。被害形態は一般継手の抜け、継手漏水であった。

なお、旧富来町には呼び径 250 の A 形管路が埋設されていた道路が、延長 20m 及び 30m の 2 箇所、20cm の沈下及び亀裂を生じたが、漏水は生じなかった。

- ④ 鋼管の被害件数は 1 件であり、被害率は 0.1 件/km であった。被害内容は溶接継手管路での孔食による被害であった。
- ⑤ ポリエチレン管（融着接合）は、約 1km 布設されていたが、被害はなかった。

表 4.6 口径・管種・被害形態別被害件数（志賀町）

管種	DIP	CIP	ACP	SP	PE	VP	その他	計	管路延長 (km)	被害率 (件/km)
口径	50mm以下					1		1	38.7	0.03
	75mm			1		7		8	116.7	0.07
	100mm	1				4		5	83.3	0.06
	150mm	3				1		4	93.6	0.04
	200mm	1						1	16.1	0.06
	250mm	1						1	7.5	0.13
	300mm以上							0	46.3	0.00
被害形態	継手抜け	4				5		9		
	継手漏水	2				3		5		
	管体破損				1	5		6		
	付属設備							0		
	その他							0		
計	6 (一般継手)	—	0	1	0	13	0	20	402.2	0.05
管路延長 (km)	198.2	—	0.4	10.3	1.1	191.9	0.3	402.2		
被害率 (件/km)	0.03	—	0.00	0.10	0.00	0.07	0.00	0.05		

志賀町上下水道課の資料による

(注) 1. 上表には熊野簡水の被害件数は含まれていない。

2. 塩ビ管の被害は TS 継手での管体破損・継手抜け、RR 継手での継手抜け、漏水であった。